

3	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15100003	画像解釈におけるアプリオリ情報の有効利用に関する研究	小杉 幸夫 (東京工業大学・大学院総合理工学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者及び分担者の有する高い研究ポテンシャルを活かして、先見的知識の有効利用という観点から、当初の計画どおりに順調に研究を進行している。また研究成果もそれぞれ内容の濃い論文を中核にきちんと上げており、問題は全くない。さらに単に理論研究に終わらず、実用的な貢献も期待できる。唯一今後の発展に期待したいのは、この研究の成果が当初計画どおりに分野に依存しない一般性のあるものであることを利用者に分かりやすい形で実証し、かつそれを例えばツールのような形で提供してもらうことである。</p>				
4	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15100004	実空間における複合感性の動的モデル化とその応用に関する研究	加藤 俊一 (中央大学・理工学部・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>感性情報処理は、わが国が主導して生まれた研究分野である。本研究では、五感（視覚、聴覚、触覚・力覚、嗅覚、味覚）を対象に、これらに対する人間の感性情報処理の統合的なモデル（複合感性モデル）の構築とともに、五感情報のデータベース化をすすめ、感性情報検索システム、工業製品の外観設計、生活空間の環境設計に利用するための技術開発を行うことを目的としている。感性は重要であっても、主観性の問題があるため、その評価が難しい側面がある。とはいえ、国際的な論文誌への投稿がやや不足している。本研究では、個人の主観的な類似度判断基準を導入する新しい試みも行っているため、それらも含め、感性についての新しい知見を、今後、国際的な学術誌へ発表してほしい。また、五感といっても視覚に偏っている印象があるので、視覚以外の五感についても研究を進めてほしい。</p>				